

読書座談会で日本文学作品の「神様」を読み解こう

[わらぐつの中の神様（光村図書）]

第5学年 5名 指導者 原田圭輔

本単元で育成する資質・能力 論理的思考力・主体性・他者理解, 他者との協働

単元について

本単元は、学習指導要領C読むこと「エ登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」「オ本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を受けて設定したものである。

本教材は、おばあちゃんが孫のマサエに若いころの話をする、現在一過去一現在の額縁構造で書かれた文学作品である。家族思いで心の優しいおみつは店先で見つけた美しい雪下駄を買いたいと願ってわらぐつを編むが、不恰好であったために買い手がつかない。しかし、ある日大工が手に取って買っていく。そこでのおみつと大工の会話から、「見かけ」と「本質」について読者に訴えかける作品となっている。また、登場人物の気持ちの変化や心の通い合い、人と人との真心、真の値打ちとはといった大切なことが盛り込まれ、優れた叙述を読み取るのにふさわしい学習材であり、読書の広がりやさらに波及していくことが期待できる。

児童の実態

これまでのテストから見える児童の課題

単元テスト 「大造じいさんとガン」	79点
活用テスト「かもの卵」	86点

これまで児童は、同じテーマの本を読んだり、同じ作者の本を読んだりして、多読をして、それぞれの作品について解釈を重ねてきた。しかし、作品同士の共通点や相違点を見つけるといった「関連付けながら読む」ことができておらず、それぞれの作品の解釈に留まっている現状がある。

また、それぞれの作品の解釈について自分でノートにまとめたり、作品にまとめたりすることはできるようになったが、一人一人が読んだ作品について解釈を伝えたり、そこから考えを深めたりすることはできていない。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「文学作品における『神様』を読み解こう」と設定し、「神様」がキーワードとなる文学作品を読み、読書座談会を通して、それぞれの作品を関連付けて日本文学作品における「神様」とは何なのかを考えていく。そのために、「わらぐつの中の神様」を共通教材として、物語の「ナゾ」を解いていくことで、作者が作品に込めた思いやキーワードとなる「神様」について解釈していく。そこで学んだ解釈の仕方を使って、様々な文学作品を読み、読書座談会で解釈を交流し合い、考えを深めていく。

第一次では、解釈を交流させる方法として、「読書座談会」というものがあることを教える。読書座談会を通して「文学作品における『神様』とは何だろうか」という学習課題を設定する。「わらぐつの中の神様」を全員で読んでいくことで学習方法について学ぶことや並行読書をすることで様々な作品の解釈を進めていくことを押さえる。

第二次では、「わらぐつの中の神様」について、物語の「ナゾ」を中心に、解釈を進めていく。わらぐつの中の「神様」とは何なのかを全員で考える。

第三次では、これまでの学習を活かして、読書座談会を開き、文学作品における「神様」とは何なのか考えを深める。

単元の目標

- 「神様」がキーワードとなる作品を進んで読み、読書座談会に意欲的に参加している。【関・意・態】
- 中心人物の心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。【読むこと エ】
- 本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【読むこと オ】
- 文章にはいろいろな構成があることについて理解している。【言語事項 イ(キ)】

単元でつくれる力

- 複数の本や叙述を関連付けて読みながら、作品に対する自分なりの解釈をもち、理解を深めていく力。
- 友達と作品に対する解釈を交流し、自分の考えを広げたり深めたりする力。

そのための言語活動

「神様」がキーワードとなる作品を関連付けて読み、共通点や相違点を見つけたり、解釈を交流し合ったりする読書座談会をする。

評価規準

教科【国語科】			育成しようとする 資質・能力
関心・意欲・態度 (☆主体性)	読む能力 (★論理的思考力) (◎他者理解・他者との協働)	言語についての 知識・理解・技能	
☆「神様」がキーワードとなる作品を進んで読み、読書座談会に意欲的に参加している。	★マサエ、おばあちゃん、おみつと大工の心情、3つの場面（現在－過去－現在）それぞれについての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめている。 ◎本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。	文章にはいろいろな構成があることについて理解している。	【論理的思考力】 作品について多様な視点で読んだり、関連付けて解釈したりしている。 【主体性】 学習対象を総合的に考え、課題発見、追究、解決を繰り返し、学びを連続・発展させている。 【他者理解・他者との協働】 多様性や考えの違いを認め、互いのよさを生かして、課題を解決している。

本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

【論理的思考力】

「神様」というキーワードをもとに、一つの作品にとどまらずに、複数の作品を関連付けて読みを深めさせる。物語の「ナゾ」について、文章の叙述をもとに解決していくことで、自分なりの解釈について学ばせ、論理的に読み、考える力を身につけさせたい。

また、自分の読みだけでなく「読書座談会」を通して、友達の読みについても触れ、関連付けて考える力もつけさせたい。

【主体性】

「文学作品の『神様』とは何だろうか？」という学習課題を設定し、並行読書を通して複数の文学作品を読み、解釈をし、考えを広げたり深めたりさせていくことで主体性を伸ばしていきたい。また、それぞれが考えたことを「読書座談会」で発表するという言語活動を設定することで、自ら文章をよく読んでいく姿勢を身につけさせたい。

【他者理解・他者との協働】

「読書座談会」では、自分が読んでいる作品について友達が話す場合もあれば、自分が読んでいない作品について友達が話す場合もある。自分が読んでいる作品については、友達と自分との考えの共通点や相違点を見つけながら聞くことで、自分の考えを広げたり深めたりさせていく。自分が読んでいない作品については、友達の考えを自分の考えとつなげて聞くことで、自分の考えを広げたり深めたりさせていく。友達の意見を聞くことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができることを実感させ、他者理解をさせていきたい。また、この読書座談会を通して、学習課題である「文学作品における『神様』とは何だろうか？」ということ友達と協力しながら解決していくことで、他者との協働のよさや効果を実感させていきたい。

研究仮説にかかわって

【思考の「見える」化】

児童の思考を「見える」化するために、ノート指導では、物語の「ナゾ」を設定し、それらを解決するために考えた児童の読みや集団での深まった読みを書かせる。個人で考える時間を確保し、考えたことをノートに確実に書かせる。話し合いをしながら深まっていった考えはその都度ノートへ記入させる。また、読書座談会時には、相手の発表を聞くことを中心に進めながらも、大切なことについてはメモを取りながら聞くことも大切にしていきたい。

並行読書で読んだ本についての記録をノートにさせる。あらすじや感想、作品の解釈をまとめさせる。読書座談会を開くための準備で活用できるように記録させる。

【相手や目的等の「意識」化】

本単元では、言語活動を「読書座談会」と設定している。相手は5年生の友達であり、目的は作品の解釈を交流し合い、日本文学作品における「神様」とは何かを考えることである。

「意識」化させるために、5年生全員の学習課題が「日本文学作品における『神様』とは何か」であり、それを解決するために、全員で複数の本を読み、解釈について交流し、考えを深めていくという学習の流れを毎時間指導していく。

指導計画 (全9時間)

次	時	学習活動	評価			
			関	読	言	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 学習課題「文学作品における『神様』とは何だろうか」を設定し、読書座談会をする学習計画を立てる。	○			学習課題から学習の見直しをもち、学習計画を立てている。 (ノート, 行動観察)
	2	情報の収集 「わらぐつの中の神様」を読み、一人学びをする。	○			物語を進んで読み、物語の「ナゾ」を見つけたり、大まかな内容をつかんだりしている。(ノート)
二	3	情報の収集 整理・分析 はじめ(現在)のマサエとおばあちゃんの心情や場面の描写をとらえ、物語の「ナゾ」を解決する。		◎	○	登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナゾ」を解いている。 (ノート, 発言) 現在-過去-現在の額縁構造の構成になっていることを理解している。 (ノート)
	4	情報の収集 整理・分析 中(過去)のおみつと大工の心情や場面の描写をとらえ、物語の「ナゾ」を解決する。		○		登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナゾ」を解いている。 (ノート, 発言)
	5	情報の収集 整理・分析 おわり(現在)のマサエとおばあちゃんの心情や場面の描写をとらえ、物語の「ナゾ」を解決する。		○		登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナゾ」を解いている。 (ノート, 発言)
	6	整理・分析 まとめ・創造・表現 学習を振り返って、「わらぐつの中の神様」の「神様」は何なのかを考える。		○		全文を見通して、中心となる物語の「ナゾ」を解いている。 (ノート, 発言)
三	7	整理・分析 まとめ・創造・表現 並行読書で読んできた本をもとに、読書座談会の準備をする。	○	◎		本を読んで考えたことを発表するために、進んで考えをまとめている。 (ノート)
	8	まとめ・創造・表現 実行 読書座談会をし、それぞれの作品の解釈について交流し、関連付けて文学作品の「神様」は何かを考える。	○	◎		本を読んで考えたことを意欲的に発表し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (ノート, 発言)
	9	実行・振り返り 文学作品の「神様」について考えを交流し合い、学習の振り返りをする。		○		読書座談会を通して考えたことについて発表し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (ノート)

キーワードが「神様」の文学作品の並行読書

読書座談会で立松和平の“命”観を読み解こう

[海の命（光村図書）]

第6学年 7名 指導者 原田圭輔

本単元で育成する資質・能力 論理的思考力・主体性・他者理解、他者との協働

単元について

本単元は、学習指導要領C読むこと「エ登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」「オ本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を受けて設定したものである。

本教材は、海と関わって生きてきた漁師の父や与吉じいさに影響を受けながら、自らも漁師としての生き方を深めていき、「村一番の漁師」として成長していく主人公太一の生涯を描いた作品である。破るべき相手として追い求めてきた瀬の主クエとの出会いにおいて、あえてその夢を放棄する漁師としての太一の変容が場面の劇的な展開と対応した内面のドラマとして見事に描き出されている。

太一にとっての瀬の主クエのように「海の命」に象徴された自然というものの本質やそれと関わって生きる人間のありようについて読み取ることで、自分の問題として考えていくことができる学習材である。

児童の実態

これまでのテストから見える児童の課題

単元テスト「やまなし」	90点
活用テスト「よだかの星」	82点

これまで児童は、同じテーマの本を読んだり、同じ作者の本を読んだりして、多読をしてそれぞれの作品について解釈を重ねてきた。自分で物語の「ナゾ」を設定し、それを解決しながら読むような一人学びもできてきている。しかし、自分の解釈や考えをはっきりと友達に伝え、考えを広げたり深めたりすることができていない。

また、文章全体や作品同士を関連付けて読むことができず、部分の読みや作品一つ一つの読みに留まっている現状がある。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「立松和平の“命”観を読み解こう」と設定し、立松和平の「命シリーズ」を読み、読書座談会を通して、それぞれの作品を関連付けて立松和平が考える「命」とは何なのかを考えていく。そのために、「海の命」を共通教材として、物語の「ナゾ」を解いていくことで、作者が作品に込めた思いやキーワードとなる「命」について解釈していく。そこで学んだ解釈の仕方を使って、立松和平の「命シリーズ」を読み、読書座談会で解釈を交流し合い、考えを深めていく。

第一次では、解釈を交流させる方法として、「読書座談会」というものがあることを教える。読書座談会を通して「立松和平の“命”観はどんなものだろうか？」という学習課題を設定する。「海の命」を全員で読んでいくことで学習方法について学ぶことや並行読書をすることで「命シリーズ」の解釈を進めていくことを押さえる。

第二次では、「海の命」について、物語の「ナゾ」を中心に、解釈を進めていく。海の命に込められた立松和平の「命」についての考えを全員で考える。

第三次では、これまでの学習を活かして、読書座談会を開き、立松和平が考える「命」とは何なのかについて考えを深める。

単元の目標

- 立松和平の「命シリーズ」を進んで読み、読書座談会に意欲的に参加している。

【関・意・態】

- 中心人物の心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。

【読むこと エ】

- 本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【読むこと オ】

- 語感、言葉の使い方に対する感覚について関心をもっている。

【言語事項 イ(カ)】

単元でつける力

- 複数の本や叙述を関連付けて読みながら、作品に対する自分なりの解釈をもち、理解を深めていく力。

- 友達と作品に対する解釈を交流し、自分の考えを広げたり深めたりする力。

そのための言語活動

立松和平の「命シリーズ」を関連付けて読み、共通点や相違点を見つけたり、解釈を交流し合ったりする読書座談会をする。

評価規準

教科【国語科】			育成しようとする 資質・能力
関心・意欲・態度 (☆主体性)	読む能力 (★論理的思考力) (◎他者理解・他者との協働)	言語についての 知識・理解・技能	
☆立松和平の「命シリーズ」を進んで読み、読書座談会に意欲的に参加している。	★太一の心情、登場人物との関係、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめている。 ◎立松和平の「命シリーズ」を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。	語感、言葉の使い方に対する感覚について関心をもっている。	【論理的思考力】 作品について多様な視点で読んだり、関連付けて解釈したりしている。 【主体性】 学習対象を総合的に考え、課題発見、追究、解決を繰り返し、学びを連続・発展させている。 【他者理解・他者との協働】 多様性や考えの違いを認め、互いのよさを生かして、課題を解決している。

本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

【論理的思考力】

立松和平の「命シリーズ」を並行読書させることで、一つの作品にとどまらずに、複数の作品を関連付けて読みを深めさせる。物語の「ナゾ」について、文章の叙述をもとに解決していくことで、自分なりの解釈について学ばせ、論理的に読み、考える力を身につけさせたい。

また、自分の読みだけでなく「読書座談会」を通して、友達の読みについても触れ、関連付けて考える力もつけさせたい。

【主体性】

「立松和平の「命」観とは何だろうか？」という学習課題を設定し、並行読書を通して立松和平の「命シリーズ」を読み、解釈をし、考えを広げたり深めたりさせていくことで主体性を伸ばしていきたい。また、それぞれが考えたことを「読書座談会」で発表するという言語活動を設定することで、自ら文章をよく読んでいく姿勢を身につけさせたい。

【他者理解・他者との協働】

「読書座談会」では、自分が読んでいる作品について友達が話す場合もあれば、自分が読んでいない作品について友達が話す場合もある。自分が読んでいる作品については、友達と自分との考えの共通点や相違点を見つけながら聞くことで、自分の考えを広げたり深めたりさせていく。自分が読んでいない作品については、友達の考えを自分の考えとつなげて聞くことで、自分の考えを広げたり深めたりさせていく。友達の意見を聞くことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができることを実感させ、他者理解をさせていきたい。また、この読書座談会を通して、学習課題である「立松和平の「命」観とは何だろうか？」ということ友達と協力しながら解決していくことで、他者との協働のよさや効果を実感させていきたい。

研究仮説にかかわって

【思考の「見える」化】

児童の思考を「見える」化するために、ノート指導では、物語の「ナゾ」を設定し、それらを解決するために考えた児童の読みや集団での深まった読みを書かせる。個人で考える時間を確保し、考えたことをノートに確実に書かせる。話し合いをしながら深まっていった考えはその都度ノートへ記入させる。また、読書座談会時には、相手の発表を聞くことを中心に進めながらも、大切なことについてはメモを取りながら聞くことも大切にしていきたい。

並行読書で読んだ本についての記録をノートにさせる。あらすじや感想、作品の解釈をまとめさせる。読書座談会を開くための準備で活用できるように記録させる。

【相手や目的等の「意識」化】

本単元では、言語活動を「読書座談会」と設定している。相手は6年生の友達であり、目的は作品の解釈を交流し合い、立松和平が考える“命”とは何かを考えることである。

「意識」化させるために、6年生全員の学習課題が「立松和平の“命”観とは何か？」であり、それを解決するために、全員で立松和平の「命シリーズ」を読み、解釈について交流し、考えを深めていくという学習の流れを毎時間指導していく。

指導計画 (全9時間)

次	時	学習活動	評価			
			関	読	言	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 学習課題「立松和平の“命”観は何か？」を設定し、読書座談会をする学習計画を立てる。	○			学習課題から学習の見直しをもち、学習計画を立てている。 (ノート、行動観察)
	2	情報の収集 「海の命」を読み、一人学びをする。	○			物語を進んで読み、物語の「ナゾ」を見つけたり、大まかな内容をつかんだりしている。(ノート)
二	3	情報の収集 整理・分析 クエと対面する前の太一の心情や登場人物の関係、場面の描写をとらえ、物語の「ナゾ」を解決する。		◎	○	登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナゾ」を解いている。 (ノート、発言) 語感、言葉の使い方に対する感覚について関心をもっている。 (行動観察)
	4	情報の収集 整理・分析 クエと対面した太一の心情や場面の描写をとらえ、物語の「ナゾ」を解決する。		◎	○	登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナゾ」を解いている。 (ノート、発言) 語感、言葉の使い方に対する感覚について関心をもっている。 (行動観察)
	5	情報の収集 整理・分析 クエと対面した後の太一の心情や登場人物の関係、場面の描写をとらえ、物語の「ナゾ」を解決する。		◎	○	登場人物の心情や場面の描写から、物語の「ナゾ」を解いている。 (ノート、発言) 語感、言葉の使い方に対する感覚について関心をもっている。 (行動観察)
	6	整理・分析 まとめ・創造・表現 学習を振り返って、「海の命」における立松和平の“命”観について考える。		○		全文を見通して、中心となる物語の「ナゾ」を解いている。 (ノート、発言)
三	7	整理・分析 まとめ・創造・表現 並行読書で読んできた本をもとに、読書座談会の準備をする。	○	◎		本を読んで考えたことを発表するために、進んで考えをまとめている。 (ノート)
	8	まとめ・創造・表現 実行 読書座談会をし、それぞれの作品の解釈について交流し、関連付けて立松和平の“命”観について考える。	○	◎		本を読んで考えたことを意欲的に発表し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (ノート、発言)
	9	実行・振り返り 立松和平の“命”観について考えを交流し合い、学習の振り返りをする。		○		読書座談会を通して考えたことについて発表し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (ノート)

立松和平「命シリーズ」の並行読書

本時の学習

【5 学年 本時の目標】

○並行読書で読んできた作品について，作者が作品を通して伝えたかったことや優れた叙述を発表し合う「読書座談会」を通して，日本文学作品における「神様」について自分の考えをまとめることができる。

【準備物】

これまでの学習の掲示物，並行読書で用意した本，ホワイトボード，付箋，模造紙

○評価規準【教科】 (評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】	指導上の留意点	学習活動
	・学習計画から本時のめあてを確認させる。	1 本時のめあてを確認する。
	読書座談会をして，文学作品における「神様」は何なのかを考えよう。	
○ 関・意・態，読む ★ 主体性 本を読んで考えたことを発表し，読書座談会に意欲的に参加している。 (発言，行動観察) ★ 論理的思考力 自分の解釈と友達との解釈とを関連づけてさらに解釈をしている。 (発言，ノート)	・作者が作品を通して伝えたかったことや優れた叙述について発表させる。 ・机をつけて全員の顔が見られるようにする。 ・司会を立てずに，自分たちから出てきた意見をもとに進めさせる。 ・ホワイトボードや付箋，模造紙を用意しておき，必要に応じて使わせる。 ・時間制限（20分）をし，集中して考えを広げたり深めたりさせる。座談会が終わったら，座談会の振り返りをさせる。 ・「わらぐつの中の神様」と比較させ，共通点や相違点について考えさせる。	2 読書座談会をする。
【話題として取り上げられそうな叙述の例】 「トイレの神様」(植村花菜) …トイレには，それはそれはキレイな女神さまがいるんやで。 「ツトムとでんしゃのカミサマ」(にしかわおさむ) …おいらがゆめをみせた人はしあわせになれるってさ。 「いへのなかのかみさま」(もとしいづみ) …かみさまはどこにでもいるんだよ。		
○ 読む ★ 他者理解・他者との協働 読書座談会を通して自分の考えを広げたり深めたりしている。 (ノート，原稿用紙)	・それぞれの作品についても述べながら150～200字でまとめさせる。 日本の文学作品における「神様」とは何なのでしょう。読書座談会を通して考えたことをもとにしてまとめましょう。	3 文学作品における「神様」とは何なのかについて，自分の考えをまとめる。
	・新しく知ったこと，学習の仕方，学習の活かし方について整理する。	4 本時の学習を振り返り，次時の内容を確認する。

【6 学年 本時の目標】

○並行読書で読んできた立松和平の「命シリーズ」について，作者が作品を通して伝えたかったことや優れた叙述を発表し合う「読書座談会」を通して，立松和平の「命」観について自分の考えをまとめることができる。

【準備物】

これまでの学習の掲示物，立松和平の「命シリーズ」本，ホワイトボード，付箋，模造紙

○評価規準【教科】 (評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】	指導上の留意点	学習活動
	・学習計画から本時のめあてを確認させる。	1 本時のめあてを確認する。
	読書座談会をして，立松和平の「命」観について考えよう。	
○ 関・意・態，読む ★ 主体性 本を読んで考えたことを発表し，読書座談会に意欲的に参加している。 (発言，行動観察) ★ 論理的思考力 自分の解釈と友達との解釈とを関連づけてさらに解釈をしている。 (発言，ノート)	・作者が作品を通して伝えたかったことや優れた叙述について発表させる。 ・3人，4人グループに分かれさせ，全員が発言できるようにする。 ・机をつけてグループ全員の顔が見られるようにする。 ・司会を立てずに，自分たちから出てきた意見をもとに進めさせる。 ・ホワイトボードや付箋，模造紙を用意しておき，必要に応じて使わせる。 ・時間制限（20分）をし，集中して考えを広げたり深めたりさせる。座談会が終わったら，それぞれのグループでの座談会について簡単にもう一方のグループに伝えさせる。 ・「海の命」と比較させ，共通点や相違点について考えさせる。	2 読書座談会をする。
【話題として取り上げられそうな叙述の例】 「山のいのち」…生きているものは悲しい ぜんぶがぐるぐるまわっている 「木のいのち」…子どもの時代の自分と同じ 変わりありません 「田んぼのいのち」…いつも一年生の気分 米そのものが命 なぜ米づくりをやめない 「街のいのち」…時間は生きている この命の気配こそが，生きようと瞳をはげます母の声だ 「牧場のいのち」…牛が生まれた 牛が旅立っていく		
○ 読む ★ 他者理解・他者との協働 読書座談会を通して自分の考えを広げたり深めたりしている。 (ノート，原稿用紙)	・それぞれの作品についても述べながら150字～200字でまとめさせる。 立松和平の考える「命」とは何なのでしょう。読書座談会を通して考えたことをもとにしてまとめましょう。	3 立松和平の「命」観についての自分の考えをまとめる。
	・新しく知ったこと，学習の仕方，学習の活かし方について整理する。	4 本時の学習を振り返り，次時の内容を確認する。

読了日	題名	著者	出版社・発行所	学年(冊数)
	①かみさまからの おへらもの			
	②あたまのうえの かみさま			
	③いえのなかの かみさま			
	④きしねのかみさま			
	⑤いじえんの かみさま			
	⑥おねじょの かみさま			
	⑦フーラの 神様			
	⑧かみさまの SUNNY			
	⑨小道の 神様			
	⑩シトムとでんしゃ のカミサマ			
	⑪おすけの かみさま			

読書(1)	題名	著者(仮名)	ISBN(仮名)・発行	XJIS(仮名)
	① 山のいのち			
	② 川のいのち			
	③ 街のいのち			
	④ 牧場のいのち			
	⑤ 田んぼのいのち			
	⑥ 木のいのち			